

江戸川区消防団運営委員会議事録 要約

開催日時	令和7年2月27日（木曜日） 開会：11時00分～閉会：12時00分
開催場所	江戸川区役所 災害対策本部室
諮問事項	「変化する社会情勢に適用し、特別区消防団の組織力を向上させ住民の負託に応え続ける方策はいかにあるべきか」
出席者 (16名)	委員長 齊藤 猛 委員 小野瀬 二郎 (江戸川防火防災協会会长) 千倉 嘉一 (葛西防火防災協会会长) 松下 幸博 (小岩防火防災協会会长) 中野 ヘンリ (区議会議員) 小林 智夫 (区議会議員) 金井 高志 (区議会議員) 太田 彩花 (区議会議員) 佐野 朋子 (区議会議員) 間宮 由美 (区議会議員) 川部 浩史 (江戸川消防署長) 高橋 守忠 (葛西消防署長) 早坂 誠 (小岩消防署長) 渡邊 登 (江戸川消防団長) 関口 政男 (葛西消防団長) 佐藤 誠 (小岩消防団長)
傍聴者数	なし
配付資料	審議資料（別紙のとおり）
次第	1 開会 2 委員長挨拶 3 審議事項 4 閉会
審議内容	1 開会 司会 ただいまから江戸川区消防団運営委員会を開催します。なお、宇田川委員、田の上委員、上田委員は所要のため欠席となります。 2 委員長挨拶 委員長 本日はご出席ありがとうございます。今回は挨拶に代わり、先日区で作成した消防団を紹介する動画をご覧ください。 動画視聴

3 審議事項

諮問について

「変化する社会情勢に適用し、特別区消防団の組織力を向上させ住民の負託に応え続ける方策はいかにあるべきか」

事務局

審議資料についての説明

委 員

操法大会について、前回別の委員から実戦に向けた日々の訓練は大事だという意見があった。改めて私が身近にいる消防団員聞いたところ、若年層に否定的な意見はあるが、実戦に際しては操法訓練や操法大会が大事だという意見もあった。現在やっている操法訓練を守っていくことも大切だ。

委 員

今回は団員への意向調査で、率直な意見を聞き出すアンケートを行ったことが画期的だと感じた。他区と比べても素晴らしい内容になっている。区から消防団への補助金が増えていない中で、資格取得に対する助成制度を検討すると記載されているので、議会としても後押ししたい。操法訓練について、災害現場での活動のために守っていくということと、負担の大きさについて若手団員の声もきちんと反映されていた。結びの部分に、今後も定期的に団員の意見を取りまとめるとあるが、どのように継続していくのか。

事務局

今後の団運営委員会の諮問事項に合わせ、必要に応じて取りまとめる。アンケートの実施という形ではなく、各団の幹部会議でご意見を伺うとか、本庁からも事案に応じてアンケートがあるので、そうした団の方々の意見を聞く機会に、その都度それを実際の活動や計画に活かすということを続けていきたい。

委 員

今後も様々な形で行っていただきたい。この意向調査の自由記述に、率直な声が書かれている。消防団がなくなってしまうと困るので、団員の皆様が安心して活動継続できるよう後押ししたい。

委 員

操法訓練を実戦的でないと感じている回答が21%あり、負担の大きさもあることから時代に合わせていくということはすごく大事だと思う。やりがいや団結力は重要ではあるが、あくまで消防団の本来の目的は地域防災である。今後も引き続き意見収集を行っていただいて、時代に合わせた消防団の運営にしていただきたい。

委 員

今回、意向調査を踏まえて答申書ができているので、消防団員の方にこの内容をフィードバックしていただきたい。さらに、この答申書に基づいて消防団や江戸川区の方で何を変えたのかについて、二段階のフィードバックが必要だ。

事務局

まずフィードバックの仕方については、答申書の完成後に江戸川区のホームページなどで全部公開するので、答申書そのものに本意向調査の内容も含まれている。別添え資料も全て含めて答申書が公開になるので、そちらで消防団の方々は、しっかりと見ていただける。また、せっかく皆さんにもアンケートをお答え頂いているので、さらに追加で、団の幹部会議や、皆さんと直接お話できる機会に、詳しく説明する。

また、本諮詢は東京都の消防団に対する施策を今後どのように行っていくかということを見出すための、江戸川区としての意見を求められているものなので、一義的には東京都の今後の施策に生かされることが第一だと考えている。ただ、江戸川区内の消防団の方達に直接関係する部分もあるので、すぐに区内の消防署単位、消防団単位で取り入れられることについては、消防団長と内容について、相談させていただきながら、形にしていきたい。

委 員

事務局である葛西消防署の皆様、答申書のとりまとめご苦労様でした。まず全体を通じては大変丁寧に細かく団員のアンケートを基にした声に答えていると思った。例えば、ノズルについて、隊員の要望を受け取りながらも、メリットデメリットを踏まえて具体的に採用できるか書かれていることで、団員の要望に対する答えとなっている。活動服についても、実際に火事の現場で話をした際に、冷却する仕様になつてないことに初めて気がついたという声もあった。冷却ベストなどの導入は進めていただきたい。また、操法大会への意見についても、実戦的ではないと感じている39歳以下の団員が多いことをきちんと受け止めており、その上で、操法訓練の意義についても書かれている。ぜひ団員の皆さんのが、その答申について、確認していただきたい。また、家族との関係の重要性について、今年の小岩消防団始式では、ご家族も一緒に壇上に上がって写真撮影をされていた。最後に、副分団長以上と部長以下のやりがいに対する違いがあることから、ハラスメントに繋がりやすい。実際に消防団の方々からハラスメントについてご相談を受けることも多々ある。ハラスメント講習会の実施なども、検討してほしい。

委員長

本答申書案をご承認いただけますでしょうか。

全委員

異議なし。

4 閉会

委員長

それでは、本日の審議は以上となります。これをもちまして、今季の消防団運営委員会を終了させていただきます。答書につきましては、事務局より、3月末日までに東京都へ送付して頂きます。